

目次

本書を読むにあたって ix

コロナ禍が教訓に ix

難しそうな言葉は読み飛ばそう ix

農水大臣が獣医さんの免許を出す x

AIは案外うっかり屋さん x

わからないことは出ない xi

序 君たちの保全医学―地球環境を守るために知り・学び・変わる xiii

第1章 獣医文化教室の開始 1

ご近所の何々教室 2

獣医学を文化に 3

ほんとは学びつて楽しい！ 4

ワンヘルスのふんわりした共通理解の範囲からは 5

ワンヘルスは呪文？ 6

野生動物(医) 学的な教え	6
ヤバイ! 状態になればわかる	7
獣医公衆衛生的な教え	8
えっ、いきなりニューヨーク?	9
人の医学でもワンヘルス?	11
風土病 VS 流行病	11
公害対応ではワンヘルス系獣医さんは黙しません	13
公の公による公への害	14
そして天災	15
人災は獣医さんの自死も起こす	16
コラムその1 『保全医学研究所とは』	17
第2章 ワンヘルスの図案・漢語化	19
民族超える三つ輪	20
学校教室の算数から考古・民俗学へ	21
ワンヘルス学と Conservation Medicine	22
「CM 保全医学」誕生を知る価値	23
漢語「保全医学」が登場した背景	24
世紀末前後のロンドンでは	25

目次

和製漢語にするまでの苦悩	26
活字になっても苦しみが続く	27
コラムその2 『動物園の出会いと別れ』	28
第3章 保全医学という学際	31
獣医学の患者さんは個体 and/or 群れ	32
個体は中身が謎の箱として	33
個体群にはまだ見ぬ仲間も入ります	34
病的または健康的な個体群	34
異常個体群はどうやって正常に？	36
野生好きの憧れの職業	38
緊急医療の銃殺と追跡調査	39
異常個体群を目の当たりにして保全医登場	40
僅少となった個体の群も patient	41
動物園動物・エキゾは飼育動物で非野生！	42
コラムその3 『国内での保全医学ほか』	45
第4章 生態学との関係	51
領域の細分化と獣医系専門医	52

目次

細分化の短所	53
野生動物医も誕生中	54
応用／基礎生態学と保全医学	55
感染症は生態学でも注目！	56
感染症は全生物に対する同時多発テロ！	57
国はなぜワンヘルスを求める	57
自治体での取り組み	59
でも普通ですけど	60
ワンヘルスは憲法遂行のスパイス	61
前例主義は公平に遇するため	61
ワンヘルス職は退屈ですが	62
刺激的なスパイスをかけた背景	63
柔軟性はSDGs、動物福祉との混同を防ぐためにも？	64
コラムその4 『ホットスポット他』	65
第5章 ワンヘルスの現場	69
医獣連携／野生動物医学に分け概観	70
医学・獣医学は弱点も同じであること	71
獣医学文化の誕生はキレた獣医大生から	72

至近・究極要因からの見方・考え方	73
野生動物医学は医学／保全生態学連携を仲介・調整	74
寄生虫も動物、個体群形成し適応進化する	75
野外生態学との協働	78
野生動物医学者は余計なことをする人間	79
飲水思源	80
コラムその5 『有機・無機的環境他』	81
第6章 サバイバル文化と世界	85
日本から世界へ	86
WHOパンデミック条約の採択	86
まだ見ぬ仲間への期待	88
条約とは法律や憲法並みの厳しさか	88
直接影響を与えるのはWHOではなく国	89
WHOパンデミック条約の骨子	90
条約前の宣言	91
名もなき草の根たちの下克上	93
経済無き理想は戯言、理想無き経済は犯罪	93
コラムその6 『コウノトリ再導入計画他』	94

索引	111
著者紹介	101
おわりに	99
お礼	97

